

飛鳥資料館のみどころ（10）

展示品解説 その2

「須弥山石」

飛鳥資料館は前回紹介した石人像に加えて、もう一つ、石造物を展示しています。それが円形の石を3つ重ね、全面に山並みを浮き彫った須弥山石(重要文化財)です。

文様と内部構造から、現状の下から第1石と第2石の間にも同様の石があったことを想定でき、これらを積み上げると高さ3.4mほどに復原できます。石の内側はくりぬかれており、第1石の下面に穿たれた細い円孔から、サイホンの原理により内部に水をため、第1石の側面ケ所の穴から噴き出させる噴水施設と考えられています。

明治35年(1902)に飛鳥寺の北西の水田(現石神遺跡)で発見されたこの石造物については、その発見当初からさまざまな議論がありましたが、後の発掘調査により、石神遺跡が飛鳥時代の迎賓館と想定され、推古朝に1度、斉明朝に3度、『日本書紀』に記される「須弥山像」のいずれかにあたることは間違いなしと考えられています。

こうした須弥山石は、『日本書紀』斉明6年(660)

5月条で、「高さ廟塔の如し」と記され、その姿は、飛鳥資料館の庭に復原展示した須弥山石に見ることができます。水が噴き出すその様子は、常に動きを見せる珍しい展示物となり、館内展示の須弥山石のイメージをより豊かなものにしています。

(飛鳥資料館 清永 洋平)



須弥山石

記 録

埋蔵文化財センター研修

地方官衙遺跡調査課程専門研修

平成17年7月12日～7月26日 12名

埋蔵文化財基礎課程一般研修

平成17年8月22日～8月30日 20名

遺物観察調査課程一般研修

平成17年8月30日～9月16日 10名

飛鳥資料館夏期企画展

展示

平成17年8月2日(火)～8月31日(水)

特別講演会

平成17年8月6日(土)午後2時～

「古墳を飾る - 音乗谷古墳の埴輪 - 」

高橋 克壽 平城宮跡発掘調査部主任研究官

発掘調査現地説明会

平城第389次(平城宮中央区朝堂院)

平成17年6月18日(土) 516名

飛鳥藤原第136次(藤原宮朝堂院東第六堂)

平成17年8月27日(土) 727名

平城宮跡解説ボランティア

第4期募集を実施し、新たに32名の追加登録をおこない、総勢148名となった。

お知らせ

公開講演会

平成17年10月1日(土)午後1時30分～

於:平城宮跡資料館講堂

田辺征夫 所長

市 大樹 飛鳥藤原宮跡発掘調査部研究員

神野 恵 飛鳥藤原宮跡発掘調査部研究員

講演会(NPO平城宮跡サポートネットワークと共催)

平成17年10月16日(日)午後1時30分～

於:平城宮跡資料館講堂

東野治之 教授(奈良大学)

飛鳥資料館秋期特別展

展示 「東アジアの古代苑池」

平成17年10月22日(土)～12月11日(日)

特別講演会

平成17年10月23日(日)午後1時30分～

於:飛鳥資料館講堂

発掘速報展

奈良の都を掘る - 平城2005 -

平成17年10月25日(火)～11月30日(水)

編集 「奈文研ニュース」編集委員会

発行 奈良文化財研究所 <http://www.nabunken.jp>

Eメール jimu@nabunken.go.jp

発行年月 2005年9月